

このコーナーでは、ボランティアをしている人を応援し、ボランティアの「はじめの一歩」のきっかけになるような記事、またボランティアセンター開設に関する情報を掲載していきます。



## 音訳ボランティア「ずざらん」

音訳テープとは？  
視覚障がい者のために活字情報を耳で聞いて説明するためのテープ。  
宇美町では、社会福祉協議会や図書館でこの音訳テープを貸し出しています。



名前の由来・・・

ひとつひとつの(一人一人の)可憐な花が集まってきている、「ずざらん」という花のようという思いを込めて名づけられました。

### — 『あなたのことを考えながら読んでます』 —

「『あなたのことを考えながら読んでます』そう感じてもらえるボランティアがしたい。」と言われたのは音訳テープを聞きやすいようにつなげたり、BGMをいれたりして編集している村上さん。

「気持ちよく聞いてくださるように。」と心がけている藤木さん。「明るい気持ち伝わるように読んでます」とおっしゃる古賀さん。皆さん様に相手のことを考えて、音訳テープを吹き込むという神経を使う作業を続けておられます。

代表の中谷さんは、平成8年に太宰府の県立点字図書館(現在春日市のクローバープラザ内)で養成講座を受けた頃、宇美町の社会福祉協議会が「広報うみ」を音訳してくれる人を探していると聞いて始められたそうです。



音訳の打ち合わせの様子

宇美町に図書館ができてからは、録音専用の部屋で雑音もなく録音できるようになったそうですが、以前は夜に自宅で細心の注意を払って録音していたそうです。それでもテープには、日常遠くに聞こえる車の音や猫の鳴き声が微かに入ってしまい、私たちが気付かないようなそのわずかな音も「生活感が出ていてそれが楽しみ。」といった利用者の声もあったそうです。



定休日「録音中」。。

「共に活動する方々や聞いてくださる方々との関わりを大切にしていきたい。」と言われるのは笑顔の素敵な今福さん。男性ひとりの高瀬さんは、「まだまだ新米、勉強中です。」と言われていましたが、高瀬さんは機械に強いのでみなさん大助かりだそうです。(ちなみにこのページの写真は高瀬さんが提供してくださいました。)他にも、「いろんな意味で自分自身の力になってます」と言われている羽根さんや鳴谷さん。皆さん謙虚で、とても勉強熱心な方たちの集まり『ずざらん』は、現在8人で活動されています。

中谷さんは「利用されている方との交流会があり、交流ができたおかげで、活動の実感が湧くようになりました。「広報うみ」を音訳するのに、だいたい一週間かかります。2時間の作業で20分の録音がやっと。とても孤独で地味な作業なんです」と話していました。それなのになぜ13年間も続けてこられたのですかと尋ねた所、「聴いてくださる方がいらっしゃるから」と即答されました。

### ポランコ星から

町立図書館には、いろいろな図書があります。  
☆大型検本 大衆の読時聞に☆  
普通サイズ  
※借出しは団体のみ。

大活字本も充実しています。  
☆大活字の棚にあります。

読みやすい!  
美幸町のポランコ星から  
町並を撮りまくる  
めい入装りッリッ  
マイペースな気持  
イヤイのたすうら  
特色の車窓には  
朱田回録の。

広報の音訳テープもあります。  
録音室  
お世話に  
なってます  
※カッターでおたすね下さ、☆対面朗読室

ざっくポランも音訳されています。  
なんと! この「ポラン」星からも音訳していただいています。

お世話になつてます

広報の表紙の写真もその人々の言葉で音訳されています!

編集後記：体調が声にでしてしまうので、健康管理も大切だとか。みなさんとても温かく、笑顔の素敵な方たちでした。